

事業のタネシート

活動地域・団体名：雲南市・公益財団法人うんなんコミュニティ財団

事業名称 1：みんなのコンポスト

あらすじ

家庭ごみの約4割が生ごみであり、廃棄物処理の際に水分を多く含む生ごみが熱エネルギーを下げている大きな要因となっている。
 市内で畑などを実施している市民は生ごみを家庭で処理している人も少なくないが、町部では土地もなくコンポストを実施するにも難しい市民もいる。
 これを受け、すでに「みんなの畑（仮）」として地域の居場所づくりも兼ねた市民団体（社会福祉協議会とも連携）が運営する畑の一角にコンポストを設置し、市民農園の堆肥として活用する。また、市内の小中学校や農事組合法人、廃校活用グループ等とも連携し、コンポストの設置と市民農園を行う。

ストーリー

田畑などがなく、生ごみをそのまま家庭ごみとして出している家庭、かつコンポストに関心がある家庭を対象に生ごみをコンポストで堆肥化するプロジェクトを実施する。
 また、並行して事業者の生ごみ排出量や当該生ごみをコンポストにするにはどれぐらいの規模のものが必要なか等を調査する。
 これらにより、令和14年度雲南圏域ごみ焼却炉建替完了までに、市民でごみについて考える機会づくりやごみを減らしていく活動を実施していく。事業者の生ごみに関しては、仮に回収するとすると法律や制度があるため、どのように実現できるのか検討を行い、雲南全体のごみ排出量を減らしていきたい。

事業の骨子

現時点で想定される
課題・ボトルネック

事業の骨子		現時点で想定される 課題・ボトルネック
①ありたい未来	多様な人と自然がともに生きるまち雲南をみんなで作る	<ul style="list-style-type: none"> 適切に処理しなければ鳥獣被害が出る可能性がある 事業者から回収をする場合、行政制度の確認
②課題	<ul style="list-style-type: none"> 家庭ごみの4割が生ごみ コンポストを実施したくてもできない人がある 耕作放棄地、活用してほしい土地がある 体験型の環境学習の機会が必要 引きこもり状態からの回復期の人の活躍の場所がない 	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	<ul style="list-style-type: none"> ごみの削減、ごみ削減に取り組む人を増やす 自分のペースでできる（気づいたときにかき混ぜる、農作業をする） ごみについての理解を深める 	
④地域資源	<ul style="list-style-type: none"> みんなの畑（仮）実施団体、市民 社会福祉協議会 小学校 農事組合法人 耕作放棄地、活用できていない土地や畑 廃校 	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	<ul style="list-style-type: none"> コンポストを設置 堆肥の提供 堆肥を使い実施している畑で活動 	

⑥担い手 (Who)	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなの畑（仮）実施団体、市民 ・小学校 ・農事組合法人 ・ゼロウェイストジャパン（調査） 	課題・ボトルネックを乗り越える ために力を借りたい人物・企業 像
⑦事業で生じる循環	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみをごみにしない ・堆肥 ・環境学習 ・地域内で生きにくさを抱える人の活動の循環 	・鳥獣害対策
⑧事業で生じる成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの削減 ・ごみや環境問題への理解、参画者の増加 ・回復期の人の居場所づくり、活躍の場づくり 	

事業名称2：エコショップマップづくり及びエコショップの発掘・推進		
あらすじ		
雲南市内で量り売りや容器持ち込み可としている店舗の可視化ができていないこと、ごみ削減や地域内消費に取り組む意欲のある人が情報収集に難しさを感じていることがある。また、事業者も消費者にニーズがあるのかも把握できず、一歩踏み出せないという状況がある。		
ストーリー		
量り売りやごみ削減の取り組みを実施している店舗の可視化及び発掘を、教育分野と連携して中高生と行う。 この事業を行うことで、エコショップの利用促進及び事業者同士のつながりづくり、事業者と学生とのつながりづくりができることにより、地域内経済循環、雲南の環境に関する取組を次世代につなぐことで当事者意識の向上、人材育成を同時に行う。		
事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	多様な人と自然がともに生きるまち雲南をみんなでつくる	毎年環境問題に取り組む中高生はいるが、来年度の実施者が見えるまでには時間を要する 店舗の発掘
②課題	<ul style="list-style-type: none"> ・量り売りや容器持ち込み可能な店舗等の可視化ができていない ・環境に配慮している店舗情報の収集が困難 	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者：環境に配慮した事業者や商品の選択ができるようにする。 ・消費者：消費行動を見直すきっかけにする ・事業者：フードロスや使い捨てのものに配慮するよう呼びかけ ・次世代の育成 	
④地域資源	<ul style="list-style-type: none"> ・量り売り店舗 ・消費者 ・中高生の幸雲南塾・課題探求学習のプログラム 	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	<ul style="list-style-type: none"> ・エコショップマップ ・エコ認証 ・学習機会の提供 	
⑥担い手 (Who)	<ul style="list-style-type: none"> ・関心のある市民団体、個人、学生 	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内経済の循環 ・市民参加の増加 (情報共有、情報発信、消費行動) 	地元で量り売りなどを実施している店舗や会社など
⑧事業で生じる成果	<ul style="list-style-type: none"> ・市内のエコショップがどこにあるか消費者が知っている状態になる ・消費者がエコショップを選択するようになる ・マイボトルや容器の持ち歩き促進 ・環境に配慮した店舗を選ぶことが当たり前 	

事業名称3：地域内発電の調査（現段階では小水力を想定）		
あらすじ		
雲南では電力エネルギー代金74億円が流出している（地域エネルギー自給率自体は約58%）。未来の子どもたちの暮らしも見据えた永続的な地域内でのエネルギー循環・経済循環の仕組みづくりを目指す。		
ストーリー		
雲南では電力エネルギー代金74億円が流出している（地域エネルギー自給率自体は約58%）。未来の子どもたちの暮らしも見据えた永続的な地域内でのエネルギー循環・経済循環の仕組みづくりを目指す。現在想定している地産地消のエネルギー事業は、小水力発電、木質バイオマス発電、バイオマス発電等により（方法も検討中）、地域自主組織などの交流センター1棟ぶんの消費電力を賄うものである。まずは小さく始めることにより、地域内でエネルギー循環ができるということを市民で共有しながら、外部依存を少しずつ減らしていく。現在は雲南市内事業者へのヒアリング、統計データ分析や現地調査を実施しており今後の実施に向け検討している。		
事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	多様な人と自然がともに生きるまち雲南をみんなでつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・推進者が不在 ・資金不足 ・最適な発電方法の模索
②課題	エネルギーの依存	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	・エネルギー依存を減らす・施設内でエネルギーの地産地消	
④地域資源	<ul style="list-style-type: none"> ・雲南市内外有志メンバー23名 ・川、太陽光、木材 ・地域自主組織 	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	市民電力の提供	
⑥担い手（Who）	・雲南市内外有志チーム	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業
⑦事業で生じる循環	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー循環 ・経済循環 	<ul style="list-style-type: none"> ・出資者 ・市民電力事業関係者（調査等実施企業）
⑧事業で生じる成果	<ul style="list-style-type: none"> ・CO2排出量の削減 ・発電に伴う廃棄物の削減 ・地元エネルギー購買者 	